

調査3 止血剤が出荷制限により処方不可となったことに気付かず、薬剤の3文字検索で一つだけ表示された抗悪性腫瘍剤を処方した事例		
報告時の事例		
事例の内容	背景・要因	改善策
<p>外来で、膀胱出血が続いていた患者に止血目的でトラネキサム酸錠と一緒にカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠（血管強化・止血剤）を処方する際、誤って塩酸プロカルバジンカプセル50mg（抗悪性腫瘍剤）を1日3カプセル14日分処方した。後日、院内医事課より新規に処方した薬剤に対する病名の付記を依頼され、誤った薬剤を処方したことに気付いた。すぐに患者に連絡したが、すでに7日分内服していた。患者に翌日受診してもらい、血液検査、単純X線撮影を実施して、現在経過観察中である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処方する際、3週間前の処方をコピーしようとしたところ、カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠は「使用不可」と表示された。</li> <li>・製造販売元の出荷制限により、当該事象が発生した前日に院内在庫が消尽し、当日からカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠は処方オーダー不可薬剤に設定されていた（前日に院内メールで周知）。</li> <li>・当院は院内でオーダーが可能な薬剤のみ表示され、薬剤検索時に候補が一つの場合は、自動的に選択される仕様である。そのため、医師が「かるば」と入力した際、塩酸プロカルバジンカプセル50mgが自動的に選択された。</li> <li>・今回の場合、カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠をオーダーする場合は「あどな」と入力し、アドナ錠30mgを選択する必要があった。</li> <li>・処方箋を応需した保険薬局では、塩酸プロカルバジンカプセル50mgの在庫を持ち合わせておらず、当院薬剤部に問い合わせた15カプセル（5日分）を借り、残りは患者の自宅に郵送することとした。</li> <li>・保険薬局での服薬説明の際、担当医から処方された薬剤について聞いているか患者に確認したところ、「聞いている」と返事があった。薬剤師は薬歴システムで担癌患者かどうかを確認し、過去の記録にはそのような情報が記載されていなかったため、「抗がん薬」や「がん」という言葉を使わず、「悪い細胞をたたくお薬です」と患者に説明して交付していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師は、処方時に入力した薬剤を確認する。</li> <li>・事例発生後、院外処方においてカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠の一般名オーダーができるようにした。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「かるば」と入力すると、 [般]カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠と塩酸プロカルバジンカプセル50mgの2剤が候補として表示される。</li> <li>2) 「あどな」と入力しても、 [般]カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠とアドナ錠が候補として表示される。</li> </ol> </li> </ul>

現地状況確認調査の内容
医療機関の対応者
患者安全推進部：部長（医師）、専従医師2名、専従薬剤師1名、専従看護師1名、薬剤部：薬剤師1名

得られた情報
<p><b>1. 事故発生の経緯</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者は経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）後、血尿が続いており、医師は膀胱洗浄後に止血剤を処方しようとした。</li> <li>事例発生日の2ヶ月前の院内メールで、カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠30mgの在庫が厳しい状況であることが連絡されていた。</li> <li>事例発生日の前日の夕方、院内メールで同剤が院内・院外ともにオーダ停止になり、アドナ錠30mgを処方するよう連絡があった。アドナ錠を処方するためには「あどな」と入力して検索する必要があった。</li> <li>医師は、「かるば」の3文字で検索して表示された塩酸プロカルバジンカプセル50mg 1日3カプセルと、トラネキサム酸錠250mg 1日3錠 14日分を入力し、患者に院外処方箋を渡した。</li> </ul> <p><b>2. 背景・要因</b></p> <p>○医療機関の処方オーダ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>処方オーダは、「部分一致」の「3文字以上入力」がデフォルトになっていた。以前より、「部分一致」による検索を採用しており、電子カルテを5年前に入れ替えた際も「部分一致」を継続していた。例えば、「バイアスピリン」を処方したい場合に、アスピリンの「アスピ」で検索できるメリットがあった。</li> <li>3文字検索で検索した際に複数の薬剤が該当する場合は、処方画面の横に薬剤のリストが表示され、その中から該当する薬剤をクリックすると処方画面に薬剤名が入力される。</li> <li>3文字入力で検索した際に該当する薬剤が1剤しかない場合は、選択画面は表示されず処方画面に薬剤名が直接入力される。また、すぐに処方量を入力する画面が開き、簡易に処方ができるようになっている。今回は1剤であったため、処方画面に塩酸プロカルバジンカプセルが入力された状態になった。</li> <li>患者に初めて処方する薬剤を選択した場合は「過去使用歴はありません」とポップアップが出るようになっており、塩酸プロカルバジンカプセルの際も表示された。</li> <li>抗がん剤を選択した場合に「これは抗がん剤です」などのポップアップが出る仕組みはないが、抗がん剤は薬剤名が赤文字で表示されるようになっている。</li> <li>各薬剤には慣用句名称を設定しておくことができ、例えば塩化カリウムを処方する際に「KCL」で検索しても塩化カリウムが表示されるようになっている。</li> </ul> <p>○処方した医師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前日夕方の院内メールの「カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠はオーダ停止」という連絡は見えていなかったか、または記憶になかった。</li> <li>当日は外来患者が多く、通常より忙しい日であった。</li> <li>院内では、止血剤の注射薬はカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム静注液を採用しており、医師の頭の中での止血剤は「カルバゾクロム」であり、「アドナ」ではなかった。そのため、「かるば」で検索した。</li> <li>検索結果に「塩酸プロカルバジンカプセル50mg」が表示されたのを見て、通常汎用している尿失禁・頻尿・過活動膀胱治療剤の「塩酸プロピペリン錠」に名称が似ていたため問題ないと判断してしまった。この際、投与目的と違うことには思い至らなかった。</li> <li>塩酸プロカルバジンカプセルは抗がん剤のため赤文字で表示されていたが、医師はそのことに気付かなかった。</li> </ul>

Ⅲ
1〔1〕
1〔2〕
1〔3〕
1〔4〕
2〔1〕
2〔2〕
3〔1〕
3〔2〕
4〔1〕

- 保険薬局の薬剤師（医療機関が聞きとった内容）
  - ・塩酸プロカルバジンカプセルが処方された際、保険薬局内には在庫がなく、処方した医療機関から15錠借用した。残りの薬剤は入荷次第郵送すると患者に伝えた。
  - ・保険薬局では、処方した医療機関の処方オーダーは「前方一致」による検索だと思っていた。
  - ・基幹病院からの処方箋であり、患者に対して初めて抗がん剤が処方されても疑問には思わなかった。また、基幹病院に所属する医師が誤った薬剤を処方するはずがないと思っていた。
  - ・交付時、患者に処方された薬剤について説明を受けているか確認した際、患者からの返事は曖昧であったが、それ以上の介入はしなかった。
- 患者（保険薬局からの情報提供）
  - ・処方薬の交付の際、急いでいた。
  - ・塩酸プロカルバジンカプセルの交付時、保険薬局の薬剤師から「悪い細胞をたたくお薬です」と説明があり、患者は抗菌薬が処方されたと認識した。
- 保険薬局との連携
  - ・基幹病院であるため、広いエリアの保険薬局で調剤が行われており、全ての保険薬局と日頃から情報交換ややり取りがあるわけではない。
  - ・今回、調剤・交付した保険薬局は近隣にあり、医療機関から薬剤情報提供書を出したり、保険薬局からトレーシングレポートが届いたりするなど、日頃から情報交換ややり取りがあった。
- 院内の薬剤師
  - ・外来処方箋については、抗がん剤などのハイリスク薬であっても確認は行っていない。
  - ・今回、保険薬局に塩酸プロカルバジンカプセル50mgを貸した際は、借用書のみでのやり取りであり、患者名などの記載はなかった。薬剤を保険薬局に貸与することは、通常業務としてよくあることであり、今回の借用に対して疑問は生じなかった。
- その他
  - ・医療機関では、過去に「ウリアデック錠とノウリアスト錠」、「カルタン錠とピカルタミド錠」などの部分一致の3文字による誤処方の事例が発生していた。
  - ・近隣の14医療機関に確認したところ、「部分一致」による検索がデフォルトの医療機関は3施設であり、「前方一致」による検索が多かった。

### 3. 事例報告後、実施した主な改善策

- ・事例発生後、処方オーダーの検索について「前方一致」の「3文字以上入力」と「部分一致」の「4文字以上入力」を検討したところ、後者は入力の負担が大きいことがわかり、「前方一致」の「3文字以上入力」に変更することにした。
- ・医薬品マスタの慣用句名称の充実を図り、後発医薬品の慣用句名称に先発医薬品名を設定しておき、先発医薬品名でも検索できるようにした。また、リスクの高い薬剤の組み合わせ、例えば「マイスリー」と「マイスタン」の間違いを防止するため、「マイスタン錠【抗てんかん薬】」と表示されるようにした。
- ・医療安全推進委員会、セーフティマネジャー会議で重要伝達事項として本事例を周知した。重要伝達事項については、院内広報WEBから職員がいつでも閲覧することができる。
- ・県薬剤師会に対し、医療機関の処方オーダーの仕組みについて説明を行った。

訪問時の議論等（○：訪問者、●：医療機関）
○本事例は、出荷調整がかかった薬剤であったことと、検索条件が「部分一致」であったことの2つの要因が重なって発生した事例である。
○薬剤の出荷調整がかかった場合、他社の薬剤に変更するのか、薬効が類似した薬剤にするのかなどを選択する必要がある。近年、出荷調整がかかっている薬剤が多く、対応に苦慮していると推測される。
●処方医が限定される薬剤であれば、該当する診療科の医師のみに通知することもあるが、今回の薬剤のように診療科を問わず処方される薬剤の場合は、全医師に通知する必要がある。薬剤の処方の可否に関する医師への通知は、薬剤の出荷調整時だけでなく、販売中止や適応の変更など多岐にわたり、医師も全ての情報を覚えておくのは難しいと思われる。今後、消化酵素剤のエクセラゼが販売中止になるため、薬剤名の検索の際に、前方3文字が一致する抗てんかん薬のエクセグランの誤処方が発生しないか注視したいと考えている。
○今回は外来処方での事例であり、院外処方箋であれば出荷制限がかかっても処方可能としておくことができたのではないか。
●どちらかという院内の方が比較的在庫があり、周辺の保険薬局では枯渇していた。そのため、保険薬局から今回の薬剤を処方しないでほしいという要望があれば、処方を止めざるを得ない状況であった。
○今回、医事課の病名確認時に発見されているが、処方と適応病名の入力はどのようになっているか。医療機関によっては、薬剤処方時は、適応病名を入力しないとオーダできない仕組みにしているところもある。
●当院では、処方オーダと病名は連携していない。
○「かるば」と入力して検索した際に、院内で処方できるもののみ表示される仕組みになっているが、処方できなくてもグレーアウトしたような状態で表示するという方法もある。今回の事例であれば、カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠も表示されるがオーダできない状態になっていたら、医師が誤りに気付けた可能性がある。
●薬剤によっては、表示される薬剤名が膨大になるため現実的ではないと思っている。
○後方視的に見れば、処方箋を応需した保険薬局が、トラネキサム酸錠との組み合わせから処方内容を確認したり、塩酸プロカルバジンカプセルの処方から患者に受診した診療科を確認したりするなど、実施した方がよかった点はある。
○事例の発生後、処方システムの検索を「前方一致」の「3文字以上入力」に変更されたが、移行はスムーズに行えたか。
●慣用句検索を充実させていたこともあり、先発の薬剤名を入力しても後発医薬品が表示されるようにしたため、特に問題は発生しなかった。
○医師が、繁忙や思い込みから、処方時に薬剤名などやポップアップで出る警告を確認せずに入力することで誤処方をしてしまう事例は、他の医療機関でも発生している。処方時に薬剤を選択する際に、薬剤名や表示された警告を十分に確認せずに処方できてしまう仕組みについて検討することが重要だと考えるが、非常に難しい状況である。
○医師は、止血剤を処方するつもりで抗がん剤を選択した際、処方することの多い尿失禁・頻尿・過活動膀胱治療剤と名称が似ていたために誤りに気付かなかった。本来の処方目的とは違う薬剤を選択したことに気付いていないということは、処方の妥当性についての検討ができていないことを認識しておく必要がある。特に、忙しい時にミスは起こりやすいということを職員に理解してもらうことが大事ではないか。
○保険薬局にも事例についてヒアリングし共有されていることは、処方した医療機関と保険薬局との連携が十分されていると思われるが、ヒアリングの際に配慮されたことはあるか。
●保険薬局へはヒアリングの目的として、このような事例が発生したので一緒に対策を考えたいということなどを丁寧に伝えた。保険薬局も理解してくれたことにより、当事者を除いたメンバーで2、3回のやり取りを行った。
○日本医療機能評価機構の医療事故防止事業部は、医療事故情報収集等事業とともに薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業も運営しているため、本事例についても共有したい。

Ⅲ
1〔1〕
1〔2〕
1〔3〕
1〔4〕
2〔1〕
2〔2〕
3〔1〕
3〔2〕
4〔1〕